



西浜通信

茅ヶ崎市立西浜小学校

2026年8月31日

9月号

校長 木村 千裕

学校教育目標 ～人間性豊かでたくましく 主体的に行動する児童の育成～
【学校スローガン】「自分も人も大切に“笑顔あふれる西浜小学校”をめざして」
【めざす子どもの姿】 すすんでやる子 がんばる子 思いやりのある子



41日間の長いお休みが終わり、本日から前期後半が始まります。休み中には聞くことのできなかった子どもたちの声が学校に戻ってきました。今年の夏は、激しい豪雨や地震など、日本各地で自然災害の猛威を痛感する出来事が続きました。被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

学校では、子どもたちの安全を第一に教育活動を進めてまいります。災害は時を選ばれません。そこで保護者の皆様へ改めてお願いです。ぜひご家庭で防災についての話し合いの時間をもってください。すでに備えられているご家庭も、「子どもが一人の時に災害が起きたらどうするか」を具体的に話し合っていたきたいと考えております。登下校中や留守番中など、大人の目が届かない時間帯の避難場所や連絡方法をお子様と一緒に確認してください。

学校と家庭が手を取り合い、子どもたちが「自分の命を自分で守る力（自助）」を育てていきましょう。



さて、子どもたちは夏休みから学校生活という大きな環境の変化に直面します。この時期は心が非常に揺らぎやすく、疲れが出やすいタイミングです。私が夏休み期間中に講演で聴いた「アタッチメント（愛着）理論」では、子どもが不安な時に特定の大人に寄り添うことで安心感を得て、それを心の土台（安全基地）として再び外の世界へ踏み出せるそうです。もしお子様が「なんとなく学校に行きたくない」「体がだるい」などといったとき、それは我儘ではなく、「外の世界で頑張ってすり減った心を、安全基地である家庭で充電したい」というサインと考えられます。「甘えている」「気のせいだ」と突き放すのではなく、まずは「そっか、〇〇なんだね」と気持ちをそのまま受け止めてあげてください。話を否定せずに聴くことや、心に寄り添うことが、何よりの安心感に繋がります。子どもの不安を解消するためには、学校と家庭がしっかりと手を携え、密に連携していくことが何より大切です。本校には、専門的な視点から心のケアを行うスクールカウンセラー（SC）や、福祉の視点をもって環境に働きかけるスクールソーシャルワーカー（SSW）も在籍しており、必要に応じていつでもご紹介できます。

学校という場所もまた、子どもたちにとって安心できる「もう一つの安全基地」でありたいと願っています。今後も、ご家庭と学校がしっかりと手を取り合い、子どもたち一人ひとりの心に寄り添いながら、温かく見守っていきましょう。

